

ビジネス特集

12・1月

企業会計について学ぼう

一般の買い物や飲食の代金の支払いにおいて「会計」は耳慣れた言葉ですが、企業経営における「会計」はどのような業務であるか、理解があいまいな方も多いのではないのでしょうか？
企業会計は経営の根幹をなすものです。今回はそんな会計について学べる書を集めました。



『図解による 簿記・会計・税務・財務のしくみ』
阿部健夫／著 自由国民社 336頁

利益率の向上のためには、現状数値を日々把握し、未来の市場を予測し素早く手を打つことが必要です。現状数値こそが簿記・会計・財務の数値です。数値を把握・分析することにより将来の方向性の対策や事業計画を立てることが可能になります。基礎数値の知識をつけ、現代社会を生き抜くツールにして下さい。

『会社の活動とお金の流れが見えてくる
決算書の読み方の基本』
天野敦之／著 日本実業出版社 336頁

この本では、決算書を読むために必要最低限の会計のルール、決算書の仕組みと具体的な読み方、また決算数値と株価の関係について説明されています。見るべきポイントを押さえ、正しく数字を読み取って、業績判断をしましょう。

『小さな会社が本当に使える節税の本』
富田健太郎・葛西安寿／著
自由国民社 336頁

節税対策を、「やってはいけない・とりあえずやっておきたい・積極的にやりたい・一風変わった」の4つに区分し、内容に強弱をつけ説明されており、「何からやればよいかわからない」という悩みにこたえた一冊です。税の基本的な考え方や、銀行・税務署との付き合い方などからも、効果的な節税法を学ぶことでしょう。